

解答・採点基準例

問1 (1) イ

(2) 分類：中心商店街

根拠：(例1) 中心商店街の特徴の1つは買回品・専門品を扱う店舗が多いことである。K商店街の業種構成を見ると買回品を扱う店舗が多いため、K商店街は中心商店街だといえる。

(例2) 店主Bの話よりK商店街の衰退の原因は地域の人口減少だとわかる。(1)より中心商店街の衰退要因は「地域人口の減少」であるため、K商店街は中心商店街といえる。

(3) (例1) 「K商店街の来街者の来街頻度」

(例2) 「K商店街の昼間・夜間人口」

評価のポイント

(2) 中心商店街の特徴と、K商店街の特徴の共通点を示すことができているか。
(3) その資料・調査が、中心商店街とK商店街の共通点を裏付ける科学的な根拠を持つものであるか。
※たとえ、(2)が誤答であったとしても、(3)の資料・調査が(2)で選択した商店街の分類であることを検証するものとして適する場合、(3)は正答とする。

問2 選択肢：ア、エ

理由：ア、エは日常的に必要な商品を買う店であり、このような店を増やすことによって日常的に商店街で買い物をする人々を増やすことができるから。

評価のポイント

最寄品と買回品の特徴の区別がついているか。その行為が目的に沿った効果的なものであることを説明できているか。

問3 以下表に記載 (※ここでは居住施設化に賛成の立場の解答例を記載)

	主な解答例 (アンカー)
5	私は居住施設化に賛成である。なぜならば資料2, 3から地域人口の増減は来街者数に大きく影響を与えているといえるので、居住施設化して地域人口を増加させれば来街者数を確実に増加させることができる。確かにより遠い地域からの来街者を得るために駐車場を設置することも一理あるものの、資料6より駐車場の設置事業を行う商店街の中で繁栄しているのは3.4%に過ぎない一方衰退しているのは15.2%と、駐車場

	の設置が商店街に好影響を与えないのは明らかである。ただし、この商店街の周辺人口が減ったのはこの地域に居住する魅力が乏しくなったためとも言える。この地域に居住する魅力を増大させる取組を併せて居住施設化を進める必要がある。
4	私は居住施設化に賛成である。なぜなら居住施設化による地域人口の増加によって来街者が増えることは資料2, 3によって明らかであるためである。駐車場化案はより広い範囲から来街者を集めることができるメリットがあるものの、資料6の駐車場を設置する商店街の繁栄・衰退の項目より、駐車場設置が商店街の繁栄に役立つとは言えない。しかし居住施設化案も郊外の居住者が商店街周辺の居住に魅力を感じないと入居者が少なくなり来街者の増加に直結しないとも言える。
3	私は居住施設化に賛成である。資料2, 3より地域人口を増加させれば来街者数も増加するので、居住施設化によって地域人口を増加させるべきである。駐車場化案については、資料1より主な来街者層は自動車を運転しない割合が大きい高齢者などが多く占めるためにあまり効果的ではないと考えられる。
2	私は居住施設化に賛成である。資料2から地域人口を増加させれば来街者が増えると言える。したがって空き店舗を居住施設化し、地域人口を増やすことによって来街者を増加させることが効果的である。
1	私は居住施設化に賛成である。資料1より主な来街者層は主婦と高齢者である。居住施設化することによって主婦や高齢者以外の来街者も増えると考えられるため、空き店舗は居住施設化の方が望ましい。

問3のルーブリック

	ルーブリック
5	自らの立場を明確にしている。 対峙する案を踏まえ、複数の資料を活用して合理的に説明している。 自説のデメリットに言及しつつそれを解消する取組を提示している。
4	自らの立場を明確にしている。 対峙する案を踏まえ、複数の資料を活用して合理的に説明している。 自説のデメリットに言及している。
3	自らの立場を明確にしている。 対峙する案を踏まえ、複数の資料を活用して合理的に説明している。
2	自らの立場を明確にしている。 資料を活用して合理的に説明している。
1	自らの立場を明確にしている。 資料を用いているが説明が合理的とは言えない。